





感染症に気をつけよう！




平成26年
【3月号】


横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況		説明
インフルエンザ	 大流行	 やや増加	B型が増えたため減少傾向が止まり、学級閉鎖も再び増加しています。予防や早目の受診を心がけましょう。【2月号】
麻疹 (はしか)	 散発	 やや増加	海外からの輸入例が、首都圏で増えています。下の解説を参考にして、予防接種で防ぎましょう。

クリック 


今、気をつけたい感染症 麻疹

 現在、フィリピンなどで流行しており、海外で感染した人が国内で他の人に感染させる例が増えています。国内で感染した人では、気づかないうちに麻疹患者と接触し、感染したことが疑われるケースもあります。

 原因は麻疹ウイルスの感染で、感染力がとても強く、免疫のない人が感染すると、ほぼ100%発症します。10～12日位の潜伏期の後、初めは熱・咳など、かぜのような症状です。38℃以上の高熱が3～4日続き、いったん下がりかけ、再び上がるとともに全身に発疹が現れます。ほほの内側に白い斑点(コプリック斑)が出ることもあります。

肺炎や脳炎などの重い合併症を起こして、命に関わる場合もあります。麻疹が疑われる時は、事前に電話で相談してから、早めに受診しましょう。



 特別な治療法はありませんが、2回の予防接種で防ぐことが可能です。次の時期に、麻疹・風疹混合(MR)ワクチンを無料(定期接種)で受けられます。

- ◆ 1回目 1歳以上2歳未満
- ◆ 2回目 5歳から7歳未満で小学校入学前の1年間

このワクチンは麻疹と風疹両方に効果があります。成人の場合、横浜市では風疹対策としてMRワクチンの費用助成を3月31日まで行っています。この機会にぜひ接種しましょう。

